

即ち大體百五十名内外と見て差支なきも、如し。

然れども以上の所論は戦前の平準を示せるものにして今般の大戦中は全然其の態様を異にする唯之れ非

り遭難したる船員及び其他本詳の原因に依り行衛不明となりたる船員の統計を掲ぐることゝせり。

大正六年本日迄に齋藤船頭に舉せられたる船頭

大	英
正	二
西	年
四	英
年	英
一	七
二	一
三	八
四	七
五	六
六	五
七	四
八	三
九	二
十	一
十一	英
十二	業
十三	廢
十四	踪
十五	失
十六	合
十七	計

年 次	死亡及失踪者	乗組總員	百分率
明治四十年	(一七二)	四四九八四	○・三八
四十二年	(一三六)	四四三八七	○・三五
四十三年	(一三六)	四六〇四一	○・三〇

四、海難死亡及失蹤船員百分比